

## 憲法と映画(112)「ツーリストファミリー」(インド)

<かな>



これまで仕事や旅行で外国に出かけたのはわずかに3か国に過ぎませんが、スクリーン上であればアジアを始めヨーロッパやアフリカ大陸そして南北アメリカなど数多くの国々を縦横に旅してきました。今回紹介するのはインド映画です。インド映画と言えば上映時間が3時間超というのが主流ですが、この映画は2時間ほどなのでトイレの心配もなく安心して楽しめます。

26年におよぶ内戦や新型コロナの流行で観光業が壊滅的打撃を受け、前政権時代に債務の返済に困窮し、物価高と外貨不足から独立以来と言われる経済危機に陥ったスリランカから船でインドに密入国した一家のお話です。食うに困った主人公一家は、インド南東部ベンガル湾に面する第4の都市チェンナイに住む義兄を頼って船で密入国します。ついて間もなく通りに設置されたゴミ箱が爆発し、密入国者によるテロ事件として容疑が掛けられます。シンハラ語を話す一家はタミル語を話す街で、密入国がばれるのを恐れた義兄から「隣近所の人たちと親しくするな」、ときつく諭されます。

素朴で人懐っこい夫ダースは路上で酔いつぶれている青年に優しく「大丈夫か」と声をかけます。また運転手募集のチラシを見つけて、試用期間を経て本採用を目前に雇い主から不採用を告げられます。身分を偽り言葉で素性がばれないようにしていたことが見透かされていたのです。雇い主に密入国でインドに来たことを正直に話したことで、一転本採用として仕事を得ることができます。近所の老夫婦と親しくなった妻ワサンティは手料理を作って持っていくほど仲良くなります。ある時、老母に夫が起きてこないから見に来て欲しいと頼まれ、夫と共に安否確認に出向いて事なきを得ます。

一方ゴミ箱爆破事件を捜査していた警察は、ついに密入国者・ダース一家が住む一区画に的を絞り住民への聴取を開始します。一人ひとりが呼び出されて密入国者が住んでいないか質しますが……。

追い詰められて危機一髪の家を町の人たちの機転で危機を脱するラストが心を温かくしてくれます。勿論、歌やダンスがちりばめられているのもインド映画ならではのです。